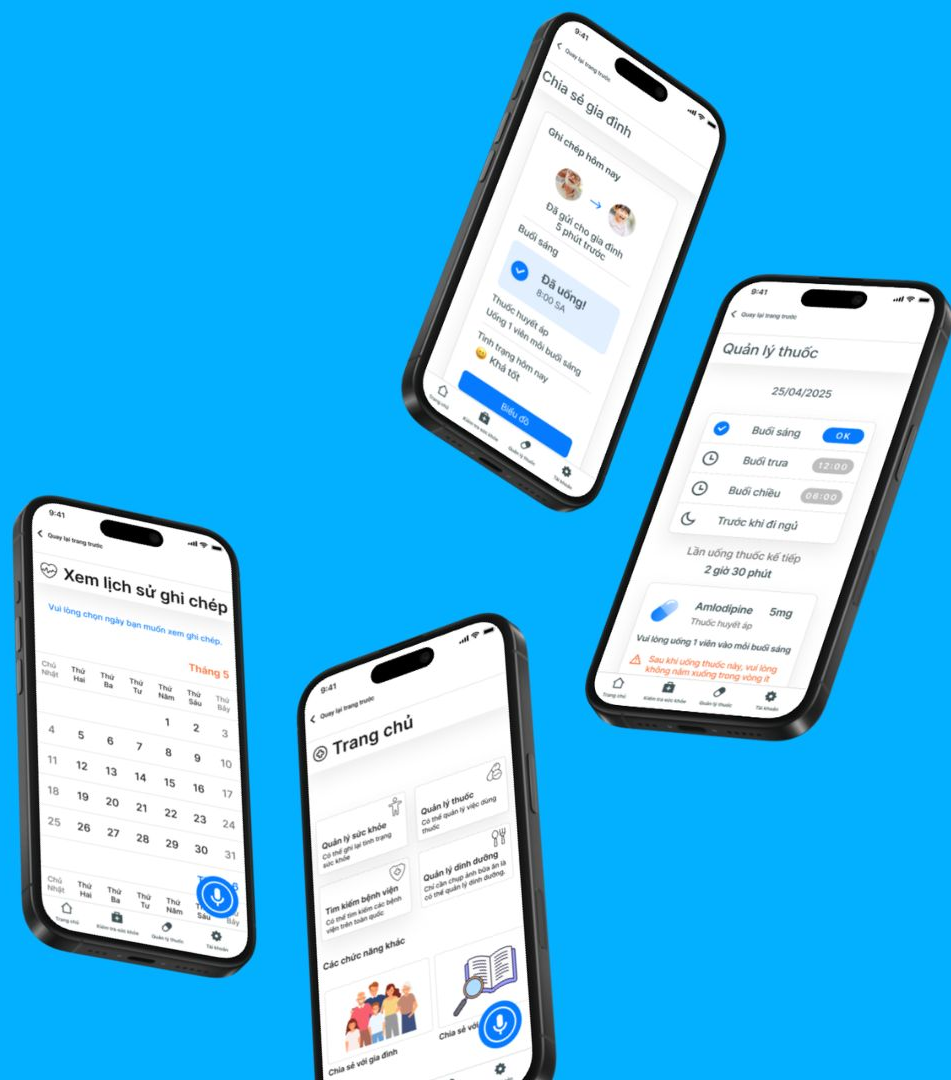


# Lea Bio

MEQUY

15-May-2026



# 会社概要

# 1. 会社情報

## 詳細情報

会社名

- ・ Lea Bio株式会社
- ・ Lea Bio Viet Nam（日本法人100%出資）

所在地

- ・ 神奈川県茅ヶ崎市赤松町8-15-6
- ・ Floor 10, Miss Ao Dai Building, 21 Nguyen Trung Ngan Street, Ben Nghe ward, District 1, Ho Chi Minh city

資本金 51,000,000円

設立年

- ・ 日本法人/2019年8月
- ・ ベトナム法人/2022年5月

責任者 浜中 康晴

## 会社が目指すもの

当社は、患者情報管理システム「MEQUY」を提供しています。MEQUYを通して「情報の力を通じて、世界中の子どもたちに平等な医療を届ける」という当社のビジョンを叶えていくことを目指します。

### 代表者について

#### 代表取締役

#### 浜中 康晴

大学卒業後、小児病院で理学療法士として勤務。

その後、製薬会社にて12年間にわたり臨床開発の分野を経験。

直近では、バイオテクノロジー企業を通じてベトナムの医療制度に触れる機会えて、その際に医療現場の過酷な現状を目の当たりにし、ベトナムの医療を変えていきたいという決意を固める。

# 1-1. Vision

## Vision

### 情報の力で世界の子どもに平等な医療を届ける

私たちは、生まれてくる環境を選ぶことができません。その環境によって医療を受ける機会に差がある現実、はまだ世界中で存在しています。なかでも、女性や子どもたちはこうした不平等の影響を最も大きく受けており、命や健康に深刻なリスクを抱えています。Lea Bioは、ベトナムやASEAN諸国を中心に開発・提供してきた医療サービスを、より多くの地域へと広げていくことで、「医療アクセスの格差をなくす」ことを目指しています。情報の力で、誰もが安心して暮らせる未来へ。それが、私たちLea Bioのミッションです。

## 2. MEQUYについて

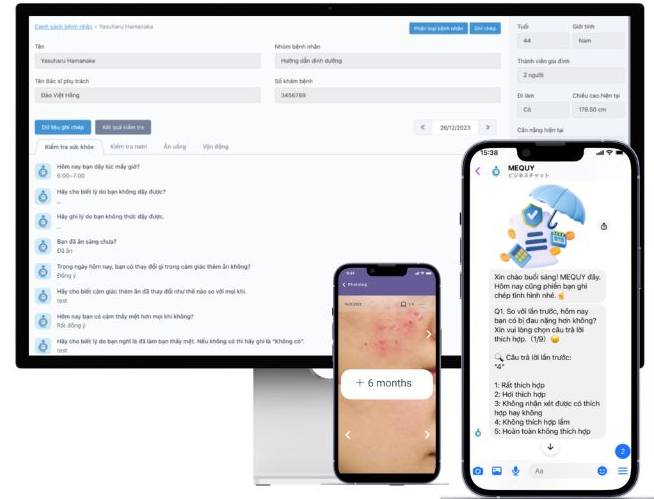
患者情報相互管理システム

# MEQUY

(呼び名：ミクイ)

コンセプト

診察をトコトンサポート



## 2. ベトナムの医療現場



## 2. ベトナムの医療現場



## 2. ベトナムの医療現場

ベトナムの医療DXの現状としては、

- HIS（病院情報システム）：公立病院導入率 約100%
- EMR（電子カルテ）：一部主要病院のみ
- AI活用：画像診断、遠隔医療、トリアージ、CDSS（診療支援）などで実証・導入が進行中

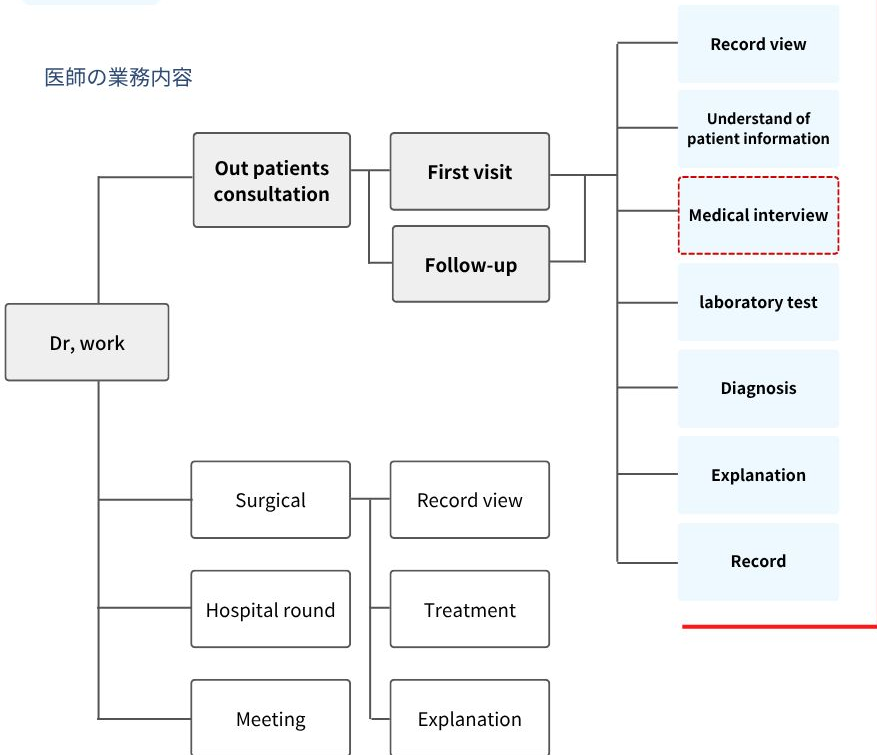
項目	日本	ベトナム
AI導入成熟度	一部実運用フェーズ	実証・初期導入フェーズ
病院AI導入率	約20～30%未満	全国統計は未整備
主な用途	画像診断、生成AI文書作成	HIS、遠隔医療、診療支援
課題	費用対効果、運用負荷	インフラ格差、医療集中

## 2. MEQUYについて / ベトナムの医療課題

図1

診察の過程で医師が行う主な業務

医師の業務内容



現在のベトナムの医療制度は、深刻な課題に直面しています。

医師たちは限られた時間と資源の中で、日々患者の診察にあたっています。

左図（図1）は、医師の1日の業務フローを示したものです。

赤く表示された部分は、患者との診察中に発生する業務であり、その多くが非効率な作業や情報整理に時間を取られている現状があります。

ベトナムでは、医師自身が患者への問診を直接行い、そこから得られる情報をもとに診断の手がかりを探し、正確な診断へとつなげています。

一方、日本ではこのプロセスの多くが看護師に任せられるか、デジタルツールによって自動化されています。

この違いは、医師の業務負担や診療効率に大きな影響を及ぼしています。

患者数の急増と医師の業務過多により、すべての患者に十分な問診時間を確保することが困難になっています。

その結果、次のようなリスクが発生する可能性があります。誤診や見逃しのリスクの増加、患者満足度の低下、医師の疲弊と医療の質の低下。

### 誤診のリスク増加

- ・ 診療時間が限られていることで、医師が患者から十分な情報を得られず、
- ・ 重要な症状の見逃しや誤った診断につながる可能性がある。

### 患者さんとの信頼関係の低下

- ・ 問診時間が極端に短いと、患者は自身の不安や症状が十分に伝わっていないと感じ、
- ・ 医療システムそのものへの信頼を失う恐れがある。

### 治療へのモチベーション低下

- ・ 患者が自分の健康状態や治療方針を十分に理解できない場合、
- ・ 治療への関心や医師の指示に対する遵守意識が低下する可能性がある。

### 予防ケアの機会損失

- ・ 診療時間が短いことで、生活習慣の改善や予防に関する十分なアドバイスが難しくなり、
- ・ 将来的な健康リスクの増加につながる恐れがある。

患者への問診は、診断の精度や治療の質を高めるだけでなく、患者の理解を深め、医療従事者との信頼関係の構築にも大きく寄与します。今後のベトナム医療においては、

効率的かつ確かな問診を支援するシステムの構築が、医療の質を根本から改善することがカギとなる。

### 3. MEQUYについて / 解決策 (医師向け)



#### 医師の業務負担増大 → 解決策：業務効率の向上

##### 課題:

患者数の増加と医師の不足により、1人の患者に割ける診察時間が限られている。

##### MEQUYによる解決:

##### ✔ デジタル問診の導入:

患者が受診前に症状や既往歴をデジタルで入力することで、医師は事前に情報を確認でき、診察時には診断と治療に集中することが可能になる。

##### ✔ 問診プロセスの標準化:

医師の経験やスキルに関係なく、一貫した医療サービスの質が確保できる。



#### 医療の質のばらつき → 【診断の標準化】

課題:診断や治療の質が医師個人のスキルに依存。結果、誤診のリスクが高まっている。

##### MEQUYによる解決:

##### ✔ データを利用した診断支援:

MEQUYは、過去のカルテや検査結果を活用することで、医師がより正確な診断を行えるよう支援。

##### ✔ 治療ガイドラインの標準化:

経験の浅い医師でも、適切な治療方針を立てられるようサポート。



#### 予防医療の不足 → 【健康管理の強化】

##### 課題:

生活習慣に起因する疾患が増加しているにもかかわらず、予防医療への取り組みは依然として十分とは言えない状況がある。

##### MEQUYによる解決:

##### ✔ 患者問診データの分析:

個々のリスク要因を特定し、早期治療の支援や生活習慣の改善につなげます。

##### ✔ 健康管理機能:

患者が自ら積極的に健康を管理・ケアできるよう支援。

# 3. MEQUYについて / 解決策 (患者向け)



## 情報不足による不安 → 【安心の提供】

課題:患者は、自身の症状や健康状態を十分に理解できないことで、不安を感じてしまう。

### MEQUYによる解決:

- ✓ 患者が診察前に症状や生活習慣を記録することで、医師は事前に必要な情報を把握し、診察をよりスムーズかつ的確に行うことができる。
- ✓ 診断結果や治療方針を視覚的に表示することで、患者が自身の健康状態や治療計画をより理解しやすくなる。



## 診断の遅れや誤診 → 【正確な診断と早期発見】

課題:問診が不十分であったり、重要な情報が見落とされた場合、誤診や治療の遅れにつながる可能性

### MEQUYによる解決:

- ✓ 重要な情報の聞き漏れを防ぎ、確実な情報収集を可能になる。
- ✓ 医師が正確な診断を行い、病気を早期に発見できるようサポートできる。



## 予防医療の不足 → 【健康管理の支援】

課題:患者は、慢性疾患や生活習慣病のリスクを自覚していない場合があり、その結果、予防措置の実施が遅れる可能性がある。

### MEQUYによる解決:

- ✓ 潜在的な健康リスクを早期に発見することが可能となる。
- ✓ 具体的なアドバイスを提供し、患者に予防行動を促すことができる。



# 3-1. MEQUYを活用することによるメリット

MEQUYの問診システムは、柔軟なカスタマイズ性と患者管理機能の統合により、従来の問診方法とは一線を画しています。

さらに、本システムは、医療従事者がリアルタイムかつ時系列で患者の健康状態データを収集できる仕組みを備えており、以下のような点で大きな改善をもたらします。

## 問診プロセスの最適化 → 平均診療時間を約30%短縮

### 【現在の課題】

- ・現在、医師が問診の全工程を直接行っており、1人あたり約5～10分を要している。
- ・忙しい医療現場では、限られた時間の中で問診が不十分になりがちで、その結果、誤診のリスクや再診の頻度が増加している。

### 【MEQUY's Impact】



平均診療時間が10分から7分に短縮（約30%の削減に相当）

- ▶ 1日あたり50人の患者を診察する医師の場合、1日で合計約2.5時間の時間削減につながる。

## 診察後の記録業務の最適化 → 医師の事務作業負担を約40%減

### 【現在の課題】

- ・診察のたびに、医師が手動で患者の症状や治療内容を電子カルテに入力する必要がある。
- ・患者数が増えるほど、医師の事務作業も膨大になり、カルテの記録に多くの時間を要することで大きな負担となる。

### 【MEQUY's Impact】



1人の患者あたりのカルテ記録時間が5分から3分に短縮（約40%の削減に相当）

- ▶ 1日あたり50人の患者を診察する医師の場合、1日で約1.5時間の時間削減につながる。

## 再診・治療後フォローのプロセス最適化 → 再診フォローにかかる時間を最大50%削減

### 【現在の課題】

- ・慢性疾患の患者や高齢者は定期的な再診が必要であり、継続的なフォローが医師にとって大きな負担となっている。
- ・症状の変化や健康状態の異常が見逃される可能性があり、状態が悪化してからようやく治療が始まるケースもある。

### 【MEQUY's Impact】



1人の患者あたりの再診時間が15分から約7～8分に短縮（約50%の削減に相当）

- ▶ 医師1人あたりで、1日あたり合計1～2時間の業務負担軽減につながる。

# 3-1. MEQUY導入によるメリット – 利用者数・契約医療機関数

前ページでご紹介した効果は、以下の主に医療機関にご協力いただき実証されています。



ベトナムでの契約医療機関数：54施設

ご契約医療機関（一部）



Name of Medical Institution :  
VAN HANH Medical center



Name of Medical Institution :  
American International Hospital



Name of Medical Institution :  
Institute of Gastroenterology and Hepatology



Name of Medical Institution :  
HCMC Hospital of Dermato-Venereology



Name of Medical Institution :  
Hoan My Medical Corporation



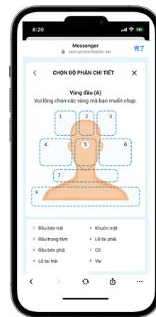
Hoan My Medical Corporation : ベトナム国内に7つの病院、14のクリニックを運営するグループ会社です。  
2025年5月30日、弊社製品における継続的な開発支援または利用等にかんするMOUを締結。

## 3-2.MEQUYの機能一覧



### 病院受診前または診察前

- ✓ 直感的で使いやすいデザイン — すべての利用者にとって操作しやすいインターフェース
- ✓ 視覚的なガイドにより、患者が症状を効果的に説明できる
- ✓ 情報が整理された構成で、医師と患者のコミュニケーションを強化
- ✓ 医療従事者の負担を軽減し、診療の効率を向上
- ✓ ベトナムの医療現場の実情に合わせた柔軟なカスタマイズが可能



### MEQUYにおける画像を用いた身体部位の特定・共有機能の主な特徴

- ✓ 痛みや異常の部位を画像上で直感的に特定・共有できる
- ✓ 言葉では伝えにくい症状の表現をサポート
- ✓ 診断の精度向上と診察時間の短縮に貢献
- ✓ 遠隔診療や医療資源の限られた地域での診療支援に有効
- ✓ 医学教育ツールや症例共有の手段としても活用可能



### MEQUY栄養管理システムの主な機能

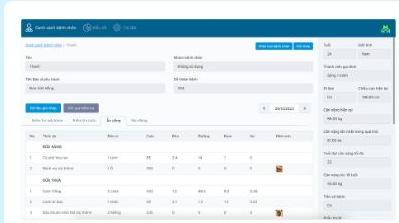
- ✓ ベトナムの食品データベースを統合し、地域に合わせた食事管理をサポート
- ✓ 摂取カロリー、塩分、脂質、糖分の詳細な追跡が可能
- ✓ 日本の有資格栄養士による専門的なアドバイスと継続的フォローを提供
- ✓ 健康管理と生活習慣の改善を目的とした設計



### MEQUYにおける塩分摂取量チェック機能の主な特徴

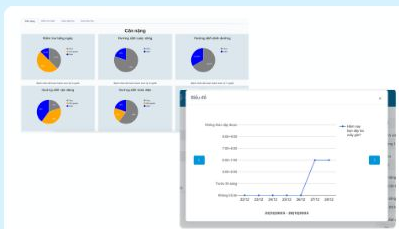
- ✓ 日々の食事からの塩分摂取量を自動的に計算・表示
- ✓ ベトナム料理に対応した塩分データベースを活用
- ✓ 推奨摂取量と比較し、過剰摂取を可視化
- ✓ 減塩のための具体的なアドバイスや代替食品を提案
- ✓ 高血圧や心血管疾患予防を目的とした健康管理を支援

## 3-2. MEQUYの機能一覧（医師向け）

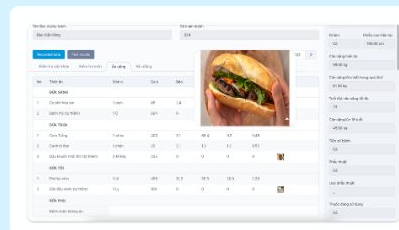


### MEQUYにおけるリアルタイム問診票共有システムの主な機能

- ✓ 患者の問診回答や健康情報がリアルタイムで医師と共有される
- ✓ 診察前に患者の状態を把握でき、診療時間の短縮につながる
- ✓ 症状の聞き漏れを防ぎ、診断の精度を向上
- ✓ 緊急時の迅速な対応や、農村部での医療支援にも対応可能



- ✓ 患者の問診回答や健康情報がリアルタイムで医師に共有される
- ✓ 健康データがグラフ形式で表示されるため、生活習慣や健康状態の変化を医師が把握しやすい
- ✓ 医師が診察前に患者の状態を正確に理解でき、診療の効率と質が向上
- ✓ 慢性疾患の予防・管理や、遠隔診療にも対応可能



### MEQUYにおける食事・運動・栄養管理の共有システムの主な機能

- ✓ 食事内容と栄養価がリアルタイムで医師と共有される
- ✓ 運動データも記録され、BMIの追跡を含む包括的な栄養管理が可能
- ✓ 日本の有資格栄養士がデータを確認し、医師に適切なアドバイスを提供
- ✓ 栄養士が不足しているベトナムにおいて、質の高い栄養指導を支援
- ✓ 慢性疾患の予防や生活習慣の改善に貢献する、実用的なシステム

## 3-3.S-health Project



# 3-3.S-health Project



S-healthは、ベトナムの医療分野における国家デジタルトランスフォーメーション戦略の一つとして開始されました。

## 公衆衛生の保護、ケア、および向上

国家戦略：2024年1月23日付 決定第89/QD-TTg号

### Overview:

本戦略は、2030年までの公衆衛生の保護、ケア、および向上に関するベトナムの国家目標を示すものであり、2045年を見据えたビジョンを含んでいます。

主な重点分野には、疾病予防、新興感染症および公衆衛生上の緊急事態への対応、健康リスク要因の管理、ならびに非感染性疾患、職業病、外傷の管理・抑制が含まれます。

## ベトナムにおける病院医療向けデジタルヘルス政策およびプログラム（PMC）



### Overview:

本レビューでは、電子健康記録（EHR）、相互運用性標準（HL7、FHIR）、サイバーセキュリティ、医療ITの導入準備状況などを含む、ベトナムの病院におけるデジタルヘルスシステムの現状および関連する政府政策について総括しています。

## 3-3.S-health Project



### 急速に進行する高齢化社会

ベトナムは2017年に正式に「高齢化社会」の段階へ入りました。2036年までには、60歳以上の人口が全体の20%を超える「高齢社会」になると予測されています。

2023年時点では、高齢者（60歳以上）は総人口の13.6%（約1,400万人）を占めています。

この人口構造の変化により、慢性疾患管理、高齢者に配慮した医療サービス、ならびに在宅・地域密着型ケアへの需要が高まっています。



### 非感染性疾患の増加

非感染性疾患（NCDs）は、ベトナムにおける全死亡の約77%を占めています（WHO、2022年）。

主な非感染性疾患の有病率：

- 高血圧：成人の25%が罹患
- 2型糖尿病：成人の約5.9%と推定（都市化や生活習慣の変化により今後増加が予測）
- 過体重・肥満：成人の19%、都市部の子どもの26%にみられる（ベトナム保健省、2022年）

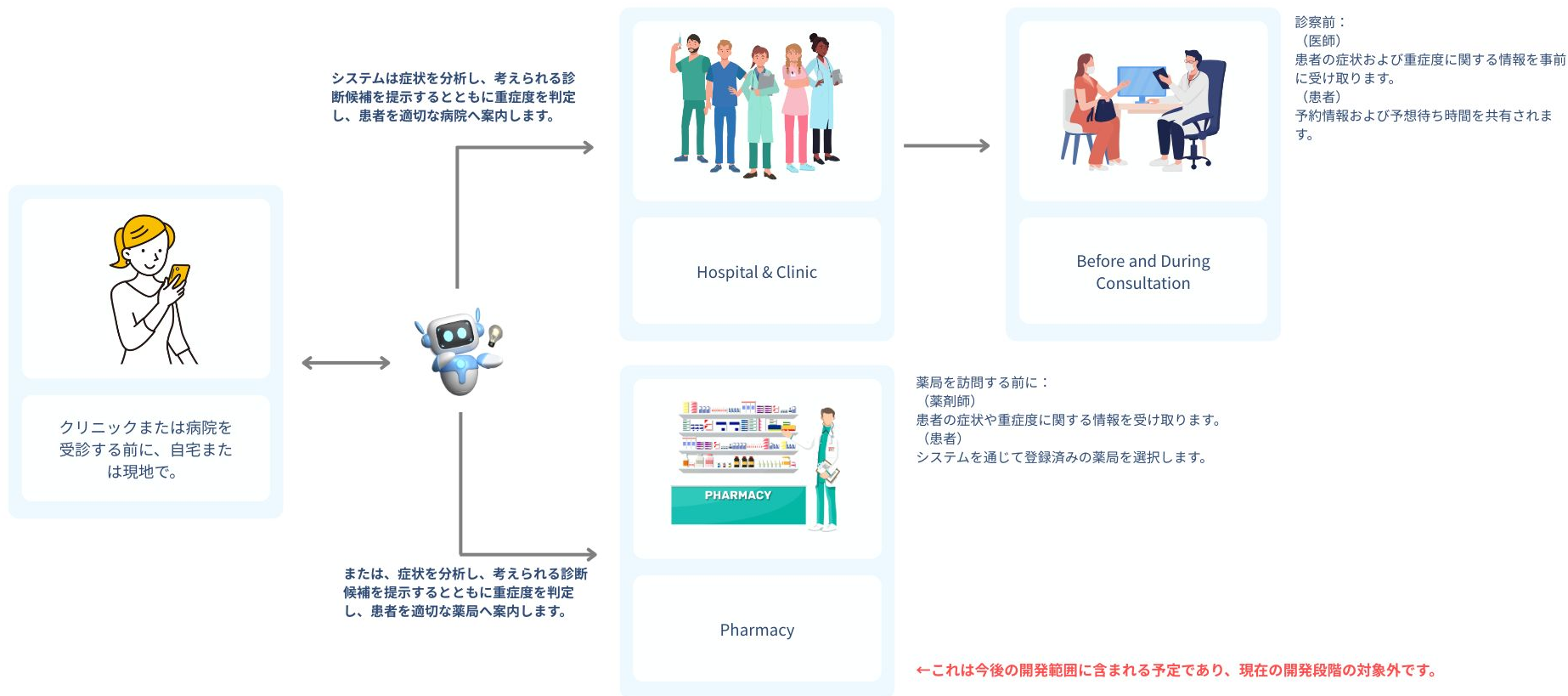


### 病院の過負荷と限定的な医療インフラ

中央病院および省立病院では、特にハノイやホーチミン市において、病床稼働率が120%を超える状況で運営されています。

その結果、待ち時間の長期化、医師のバーンアウト、患者満足度の低下が生じています。

# 3-3.S-health Project





Lea Bio